

卯年 2011年

平成23年新春対談 環境を語る

野口健総社市環境観光大使と、片岡聡一総社市長、萱原潤総社市議会議長が、環境について熱く語り合いました。



総社市長
片岡 聡一
KATAOKA SOICHI



アルピニスト
総社市環境観光大使
野口 健
NOGUCHI KEN



総社市議会議長
萱原 潤
KAYAHARA JUN

議長 野口健さんという世界で活躍されている人が総社市に足を運んでくださって、環境について語ってくださること、本当にありがたいことです。
市長 野口さんには、環境観光大使として環境学校を2回行ってもらいました。子どもたちの環境に対する思いがどんどん変わっていると思います。
野口 環境問題を学校で学ぶのも大事ですけど、現場に行つて自分の目で見て

てみて、何かを感じることも重要なんです。今年もまた子どもたちと現場でやりたいと思います。
人間社会が相手
市長 総社市は環境先駆都市を目指して、全国に先駆けた取り組みを行っています。地球環境をそのまま後世に渡すということを真剣に、総社市レベルで考えていきます。
野口 僕は最初、自然を相手に取り組むことがいわ

ゆる環境活動というイメージでしたが、実際に富士山でやってみると、結局汚れているのは人間です。つまり、相手は人間社会。社会が相手ですのていろいろな意見があったいへんです。
市長 最初エベレストのごみ拾いなんて、世界的にも理解されなかつたと思うし、富士山でごみを拾おうというのも最初は数人。それが今では7、8000人にまでなつたと

いうのは、評価されるべきことだと思えます。でも、ごみの人といわれるのはねえ……。
野口 本当に多いんです。電車のなかで小学生と顔が合うと、名前が出る前に「ごみの人だ」と言われます。本来は登山家なんですけど……。
議長 すべての大陸の最高峰を極めたという部分を持ちながら、子どもから見るとごみを拾うおじさん。親しみととらえるならいいことですよ。
野口 そうかもしれないですね。
議長 ごみの話が出ましたが、尾瀬では、普通に歩いていけばごみは見当たらない。尾瀬に行く人はみんなマナーがある人なのかというところではなく、尾瀬に入るとその雰囲気がいい人にさせてしまう。このことから学ぶことも多いと思います。
野口 尾瀬は地元の人が徹

萱原 潤 総社市議会議長
野口 健 総社市環境観光大使
片岡 聡一 総社市長